

妙安寺だより 347

テレフォン法話 092-751-6084 (毎週月曜日に話が変わります)

成 仏 (じょうぶつ)

仏教の目的と救いは、究極なところ仏陀と等しくなるということになる。

私たちは、誰でも仏陀の指し示した教えを信じ、行ない、学ぶことによって「仏になれる」のであるこれを「成仏」といいます。

仏陀の備える尊い徳については、さまざま語られています、次の十徳はそれを集約したものです。これを仏の十号ともいいます。(皆さんがんでいる提婆達多品第十二にあります)

- ①如 来=いつでも、どこでも苦悩している人のところにやって来て、苦を除き、平安と幸福を与えていること。
- ②応 具=尊敬と感謝を捧げられるに値する救いをもたらしていること。
- ③正徧知=すべての物事を正しく知り、普く見極めて、人々の苦を取り除き、悟りに導く智慧を備えていること。
- ④明行足=煩惱の闇をなくし、世間(世界)と人間の心を明るくするために、あらゆることを実行していること。
- ⑤善 逝=世の悪や煩惱に、完全にとらわれることなく、善を説き、実践していること。
- ⑥世間解=世間の事柄をよく理解し、その状態に適応して、教えを解き明かしていること。
- ⑦無上士=この上なき最高の尊い存在として、敬われること。
- ⑧調御丈夫=煩惱を調御し、確固とした生き方を、貫いている人。
- ⑨天人師=憂いなく、安楽な世界に遊んでいる存在に対して、仏の教えを悟るように教える導きの師であること。
- ⑩仏世尊=この世の救い主であり、一切衆生を我が子とみなして、悟りの道に入るよう懇切に諭す親であり、教えを説き示す師である。世に尊敬される覚者。

このような徳を備える仏という理想的人間像になることが、仏教の目標である。

これらの性質は、人間の心に内在しているのである。これを「仏性」といいます。